平成２５年度研究成果報告書　《平成２５年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	３４	都道府県・指定都市名	広島県
ふりがな 学校名 （児童数）	じんせきこうげんちょうりつゆきしょうがっこう 神石高原町立油木小学校（８２人）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：〒７２０－１８１２　広島県神石郡神石高原町油木乙１番地
電話番号：０８４７－８２－０９２６
研究内容等を掲載しているホームページの URL：http://www.jinsekigun.jp/school/yukisho/

【研究成果のポイント】
○研究課題番号：２小学校
○研究対象教科等：国語科
○研究のキーワード：単元構想見取り図，重層的な読み，並行読書，学びの累積化
○研究成果のポイント：
・全国学力・学習状況調査から課題とされた「読むこと」に関する組織的・計画的な授業改善
①「単元構想見取り図」の油木小スタイルを確立することにより，「読むこと（文学的な文章）」における基本的な授業スタイルの確立を図る。
②「ことばのお宝帳」（ファイル）を児童一人一人が作成することにより，学びの累積化を図り，国語科学習において習得したことを活用できる力を育成できるようにする。

【研究の目的，研究内容】
（１）研究主題

論理的に考える力を育成する国語科学習指導の創造
―思考，判断，表現を螺旋的・反復的に繰り返す授業づくり―

（２）研究主題設定の理由
本校は平成 23 年度より，校内研修において，「論理的に考える力の育成」を中心とした研究主題とし，「分析力」と「論理構築力」の育成を研究の柱に据え，研究実践に取り組んできた。しかし，平成 24 年度「全国学力・学習状況調査」の結果から，「目的に応じて必要となる情報を取り出し，それらを関係付けて読むこと」に関する課題を改善することができていないことが分かった。これは，教師が文章の解釈に関する目的が不明確なままに単層的な読み取り中心の授業をしてきたこと，単元を貫く言語活動を設定しても，言語活動そのものの特徴の分析や系統性の把握が不十分だったためと考えられる。
そこで，論理的に考える力を育成する国語科学習指導の在り方についての継続研究とし，単元を貫く言語活動を設定した授業構想の中で，思考，判断，表現を螺旋的・反復的に繰り返す指導を行うこととする。
（３）研究体制
教育課程研究推進部（校長・教頭・指導教諭）の指導の下，教務部（教務主任・研究主任・言語活動担当教諭・図書館教育担当教諭・特別支援教育担当教諭）が中心となり研究を進める。
（４）１年間の主な取組の経過
３月　課題設定及び研究推進計画の立案
４月　校内研修における研究推進の周知
５月　樺山調査官を講師とした授業研究を中心とした研究実践
６月～９月　日常実践と校内授業研究会
10 月　公開研究会による研究発表（樺山調査官による理論研修会）
12 月　学力調査による検証及び分析
１月～２月　課題改善に向けた校内授業研究，研究のまとめ，研究発表
３月　来年度の方向性の立案，検討

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

プロジェクト１：研究主題を解明するための基本的な授業スタイルの確立（授業改善）

「読むこと」の単元構想の１０ステップにもとづいて，基本的な授業スタイルを「単元構想見取り図」としてまとめた。全職員で共有し実践しながら，随時改善していった。「単元構想見取り図」には「単元を貫く言語活動」を設定した授業構想をベースとし，「身に付けたい力」「教材」との適切な関連を図り，「重層的な読み」の授業を位置付けた。

①教材分析（教材６つの顔）を踏まえた身に付けるべき能力の確定
②言語活動そのものの特徴の分析や系統性の把握
③単層的な読みから重層的な読みへの転換を図る授業展開や並行読書の計画
④教師による教材開発やモデルの準備
⑤単元（単位時間）の中で螺旋的・反復的に繰り返す思考，判断，表現（発問，形態や場作り，ノート等）
⑥全国学力・学習状況調査問題や授業アイディア例の位置付け

プロジェクト２：習得したことを活用できる力を育成する手立ての工夫（日常的取組）

「読むこと」の領域のみならず，国語科学習において習得したことの可視化，累積化を図った。「ことばのお宝帳」と題したファイルを全学年用意し，毎単元の終末段階で「分かったこと」「できるようになったこと」「各教科等の学習や生活の中で活用できそうなこと」などの観点に即して，学びの成果をお宝という認識のもとに記述した。また，「素敵な言葉に出会ったよ」というコーナーを設け，言葉への関心や語彙力を高めた。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

① 「単元構想見取り図」を作成することで，相手意識と目的意識をもち，主体的に読んだり表現したりしようとする姿が見られるようになった。

② 重層的な読み方をさせることで，全体と部分を行き来しながら，課題に即した読み取りができるようになってきている。

③ 様々な本や文章から根拠を取り出し課題を解決する授業展開を工夫することにより，比べ読みや摘読等の効果的な読み方を児童が選択し活用する姿が見られるようになった。

④ 本校５・６年生児童に平成 24 年度全国学力・学習状況調査Ｂ問題を実施した結果，５年生児童の正答率は 60.0%，６年生児童の正答率は 84.3%であり，どちらも全国平均を上回った。特に課題が見られた設問3の結果（下表）からも必要な情報を取り出して整理したり，複数の資料を関連付けたりしながら読むことができないという課題は改善してきていると考える。

設問３	１-ア	１-イ	２	３	４
24年度全国平均	87.3	45.0	51.0	57.6	37.7
24年度本校６年	86.0	42.9	48.0	38.0	43.0
25年度本校６年	100.0	83.0	83.0	94.0	72.2

（２）研究成果の意義等

相手や目的，意図に応じて，資料を選択したり効果的な読み方を活用したりすることは，国語科の能力の向上のみならず，各教科等の学習の基本ともなる課題解決能力の育成につながると考える。

（３）指定期間終了後の取組

重層的に読む視点の明確化や「単元構想見取り図」の改良等に継続的に取り組むことにより，実生活で生きてはたらき，各教科等の学習の基本ともなる国語能力の育成を図る。

また，今年度の研究成果を広島県学力向上実践交流会等で発表したり，ホームページで公開したりすることにより，他地域の学校における学力向上の取組の参考にしていただく。